

「LLブックをつくる」

— 市民向け LL ブック作成講座に取り組んで —

有山 裕美子* 井上 竜介** 松尾 孝行** 野口 武悟***

*滋賀文教短期大学 〒526-0829 滋賀県長浜市田村町 335

**欧文印刷株式会社 〒113-8484 東京都文京区本郷 1-17-2

***専修大学 〒101-8425 東京都千代田区神田神保町 3-8

E-mail: *y-ariyama@s-bunkyo.ac.jp, ***takenori@isc.senshu-u.ac.jp

あらまし 本発表は、2024年8月から11月にかけて滋賀文教短期大学で開催された「LLブックをつくろう」の報告である。本講座は、本学をはじめとする、びわ湖東北部地域内の大学・短期大学、自治体、産業界等で組織する「びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業」^[1]の一環として開催された。昨今、読書バリアフリー法の制定や国の「第五次子どもの読書推進に関する基本的な計画」の中でも、多様な読書機会の提供が重点項目として挙げられるなど、バリアフリー図書に対する期待と注目が高まっている。そこで、本講座のような企画を通し、LLブックの存在を広く知ってもらうとともに、その活用を推進していきたいと考えた。

キーワード LLブック バリアフリー図書 作成講座

Creating LL Books

— Working on a course for citizens to create LL books —

Yumiko ARIYAMA* Ryusuke INOUE** Takayuki MATSUO** Takenori NOGUCHI***

*SHIGA BUNKYO Junior College 335 Tamuramachi, Nagahama-city, Shiga, 526-0829 Japan

**OBUN Printing Company 1-17-2 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8484 Japan

***SENSYU University 3-8 Kandjinbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-8425 Japan

E-mail: *y-ariyama@s-bunkyo.ac.jp, ***takenori@isc.senshu-u.ac.jp

Abstract This presentation is a report on the “Let’s Make LL Books” held at Shiga Bunkyo Junior College from August to November 2024. This course was held as part of the “University-Junior College-Regional Collaboration Platform Project for the Formation of Academic, Cultural, and Educational Infrastructure in the Lake Biwa Northeast Region” [1], organized by the university, universities and junior colleges, local governments, and industry in the Lake Biwa Northeast region, including our own university. Recently, with the enactment of the Barrier-Free Reading Law and the government’s “Fifth Basic Plan for the Promotion of Children’s Reading,” which lists the provision of diverse reading opportunities as a priority item, expectations for and attention to barrier-free books have been increasing. Therefore, through projects such as this lecture, we hoped to make the existence of LL Books widely known and promote their use.

Keyword LL Book, Barrier-Free Book, Preparation Course

1. はじめに

2019年に、視覚障害者や発達障害、肢体不自由などにより読書が困難な人々（「読書に障害のある者」）が、必要な情報や文化にアクセスしやすくなるよう、読書環境を整備することを目的とし、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（通称：読書バリアフリー法）^[2]が施行された。また、「子どもの読書活動の

推進に関する法律（2001年）」に基づき、国が2023年3月28日に閣議決定した第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（2023年度から2027年度までの5年間を対象）^[3]では、子どもの読書活動を総合的かつ計画的に推進するための基本的方針のひとつとして「多様な子どもたちの読書機会」をあげ、障害のある子どもや日本語指導を必要とする子どもなど、

多様な背景を持つ子どもたちが読書に親しめる環境の整備を挙げるなど、読書のバリアフリーへの必要性や期待が高まっている。

そうした社会状況も踏まえ、本講座では、株式会社欧文印刷が提供している、LLブック作成プラットフォームである「ハートフルブック」^[4] (図1) を活用し、実際にLLブックを作成することを通し、広くバリアフリー図書について知ってもらうとともに、学校教育現場等での、読書に困難を抱える児童生徒へのアプローチの方法を提供し、広く障害児者サービスの拡充や、全ての人に読書を提供することを目指し、開催した。「LLブック」とは、知的障がいのある人や日本語を母語としていない人など、文字を読んだり、本の内容を理解したりすることが苦手な人でもやさしく読めるよう工夫されている、やさしくてわかりやすく書かれている本のことを言う。バリアフリー図書にはさまざまなものがあるが、今回はこのLLブックに焦点を当て、バリアフリー図書を知り、活用してもらう一助となることをめざした。



図1 ハートフルブック ホーム画面

なお、講座開催に際し、びわ湖東北部地域内の大学・短期大学、自治体、産業界等で組織する「びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業」(以後、プラットフォーム事業) を活用した。プラットフォーム事業は、本学をはじめとするびわ湖東北部に位置する5大学と、長浜市、米原市、彦根市、滋賀県、長浜商工会議所、彦根商工会議所が連携して行なっているもので、例年数多くの講座等が開催されている。今回の「LLブックをつくろう」は、そのうちのびわ湖東北部地域「地域を担う人材の育成プロジェクト」の一環で開催された。

2. 講座の概要

2.1. 講座に向けての準備

講座は全4回とし、会場は滋賀文教短期大学、講師

は専修大学の野口武悟教授(図書館情報学)と、株式会社欧文印刷の井上竜介さん、松尾孝行さんをお願いした。野口先生にはバリアフリー図書の概論やLLブック作成を授業等で取り入れてきた実践についてお話いただき、また、欧文印刷のお二人には、具体的にハートフルブックを使ったLLブック作成方法についての解説・指導をお願いした。開催日は、より参加しやすいようにと考え、土日に設定した。

ハートフルブックを使ったLLブック作成がWEB上の作業となるため、ある程度のパソコンスキルが必要ではあったが、参加者は特に制限をかけず、広く募集した。また教育的な活用も視野に入れていたため、近隣の小中学校や図書館等にも広報した。(図2)

広報の方法はチラシを関係各所に送付したほか、大学やプラットフォーム事業のホームページで紹介したり、近隣の図書館などにチラシを置き、ポスターを貼ったりしてもらうなどの協力をお願いした。作業の内容等を考慮して定員は30名程度としたが、最終的な申し込み人数は14名(見学者1名)だった。

申し込み方法はGoogleフォームと電話の2つの方法を用意したが、全員がGoogleフォームを通じての申し込みだった。参加者の年齢は10代から60代以上まで幅広く、属性としては学生から学校関係者、図書館に関わっている方など、教育や本に関心の高い方が集まった。



図2 「LLブックをつくろう」チラシ

2.2. 講座の構成

講座は全4回、以下の日程で開催した。

- 第1回 8月3日(土) 10時~15時
- 第2回 8月24日(土) 10時~15時
- 第3回 10月6日(日) 10時~13時(オンライン)
- 第4回 11月17日(日) 10時~15時

具体的な内容としては、まず第1回の午前中には、専修大学の野口武悟先生によるバリアフリー図書や今回の主題となっている LL ブックについての解説をしていただき、午後は LL ブック作成のプラットフォームをご提供いただき、株式会社欧文印刷の井上竜介さんと松尾孝行さんから、具体的に作成方法をご教示いただいた。(写真①)



写真① 第1回目の講座の様子

第2回目は、参加者が作りたい内容を発表し、講師からのアドバイスおよび参加者同士の意見交流の場とした。すでにかなり作り込んでいる参加者もいて、活発な意見交換が行われた。後半は、実際に作ってみて、わからなかったこと等の質問時間とした。

第3回目はオンラインで開催し、タイムスケジュールを決めて個別の相談会とした。ただし、自分の時間枠以外でも参加可とし、お互いの作品について知ることにより、自分の作品制作のヒントとなるようにした。この時点で、ほぼ完成原稿となっていることが条件とされ、最終提出に向けて細かなチェック等を行なった。



写真② 成果発表会の様子

第3回終了後に完成稿を提出し、第4回目は完成した冊子をもとに、外部に開かれた完成発表会と講座の振り返りを行なった。完成発表会においては、参加者全員が、それぞれ完成させた作品をもとに工夫した点や苦勞した点などについてプレゼンを行った。(写真②)

プレゼン後は講師の方から講評をいただいた。どの作品もさまざまな工夫が凝らされるとともに、作者の思いのこもったものになっていたと思う。午後の反省会では、完成発表会では伝えられなかったお互いの感想など、お菓子を食べながら和やかに語り合った。

2.3. 講座実施の際に留意したこと

まずは、すべてがインターネット上の操作になるので、開催場所のインターネット環境が安定していることは必須である。また、作業にパソコンが必要なため、持参のお願いと同時に持っていない方がいた場合の貸出用パソコンも準備した。

ハートフルブックの使い方マニュアルは欧文印刷が用意したが、より現状に近い形でカラー印刷が必須である。また、より LL ブックの理解を深めるため、大学図書館の協力を得て、会場内に市販の LL ブックの展示を行なった。

初心者が一から作品を完成させる過程ではさまざまな困難があり、その中で常に講師による丁寧なサポートが必要だった。また、4回という長期の講座の中でモチベーションを保つために連絡も可能な限り密に取るようにした。当初3回講座で設定したのだが、作品を完成させるためにはより丁寧な指導やアドバイスが必要であると考え、完成までに途中に相談会を挟むことにした。相談会は、旅費や時間等の制約が少ないオンライン形式を選択した。

最後の成果発表会は外に開いた形で誰もが聞きにくることができるようにした。LLブックについて広く知ってほしいという思いもあったが、実際の外部の参加者は2名で広報の難しさを感じた。

3.成果

まずは今回参加した全ての人が作品を完成させることができたことが大きいだろう。テーマは、大学紹介や図書館の利用案内のような実用的なものから、水族館などの施設紹介、電車に乗っての京都紹介などガイドブック的なもの、お孫さんの旅行の様子やへちまについて紹介した作品、自慢のペットの紹介など多岐にわたる。(図3)

このように、自分の興味・関心や身近なものを題材にしたことが、最後まで作りきることにつながったのではないかと。作品を作る際のテーマ設定も重要である。



図3 作品例「びわ湖へ行こう」より

また、制作する上で、LLブックならではの特性である「わかりやすい表現」をどう作っていくかの試行錯誤は、バリアフリー図書の活用や読むことに困難を抱えた人などへの対応時に大いに参考となるものであった。実際に、制作の過程で学んだやさしい日本語の表現やピクトグラム等の活用方法などの習得は、大変有意義であったという声に参加者の中からも多く聞かれた。制作過程の中で、こうした知見が得られたこともまた、成果であると言えるだろう。

最終形態として冊子として印刷したのだが、LLブックは電子媒体として公開することも可能である。紙としてはもちろん、電子ブックとして公開できる作品として完成させることができたこともまた、大きな成果であった。

4.課題と今後の展開

完成したLLブックは、国立国会図書館に納本したほか、公共図書館等に寄贈した方もいた。作品が公の形で残っていくことは、広くバリアフリー図書を知ってもらうためには効果的である。また、一部の作品を除き、ハートフルブックのサイトに掲載し、公開予定である。また、本学図書館で参加者の方が作成したLLブックの展示を行った。(写真③)

以上述べてきたように、作品が完成し、公開するなど一定の成果が得られたが今後これらをどうこの先に繋げていくかは大きな課題である。今回参加してくださった学校司書の方が自身が勤務する学校で、子どもたちに対し作品を使ってバリアフリー図書について学ぶ授業を実践してくださったそうだ。このように、参加者の方が各々の場所でそれぞれの方法で活用、推進していくことも期待できるが、一時的なものになってしまう可能性もある。いかに継続的かつ広範的なものとしていくかは今後の大きな課題となるだろう。

また、今回の講座は4回とし、期間も8月から11月に渡るなど長期的なものとなった。作品を作り上げて

いくためには必要な時間であった反面、興味を持ったとしてもあまりに期間が長いと尻込みしてしまう可能性も否定できず、今回参加者数が伸びなかったことの一因であると考えられる。今後のこうした講座開催の参考にしていきたい。



写真③ 図書館での成果物展示

5.おわりに

今回の講座は、広く一般の方に募りより多くの人にバリアフリー図書について知ってもらおう機会にしたいと考えたが、なかなか広報は難しく、結果的には学校や図書館など、本や教育に関わる人が大半であった。より広くバリアフリー図書について考えてもらうためには、違ったアプローチもまた考えていく必要がある。例えば地域の本屋や企業、団体などとの連携もその一例だろう。

バリアフリー図書の数はまだまだ少なく、多様な読書を支える上で不十分であると言わざるを得ない。今回のLLブック作成の講座のような機会を通し、バリアフリー図書の活用が進むことを期待する。

文 献

- [1] 「びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業」
<https://www.hn-rcc.jp/aboutus/#aboutus02>
- [2] 文部科学省「視覚障害者等の読書環境の整備(読書バリアフリー)について」
https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/1421441.htm?utm_source=chatgpt.com
- [3] 文部科学省「第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」について」
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00072.html?utm_source=chatgpt.com
- [4] 欧文印刷株式会社「ハートフルブック」
<https://heartfulbook.jp/>

(全て2025年2月13日確認)